

唾液検体を用いた *in vitro* アレルギー試験法の確立



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 講師

栗坂 知里 Kurisaka Chisato

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

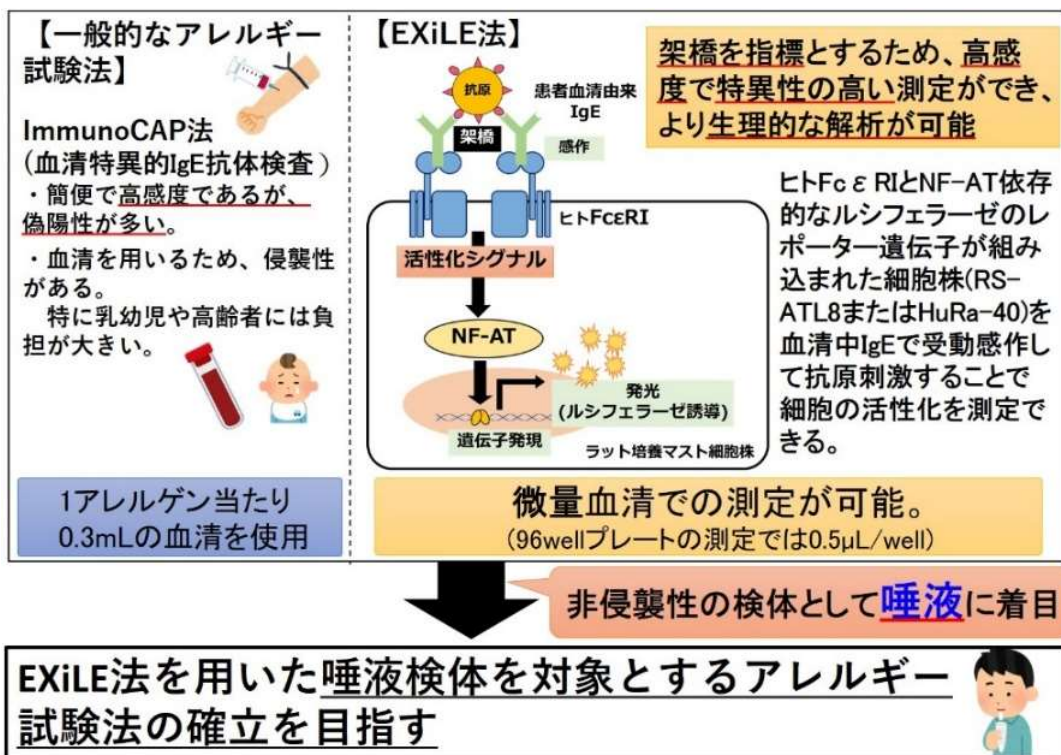
キーワード : アレルギー試験法・EXiLE 法・IgE・唾液



研究の概要

一般的なアレルギー試験法は血清を使用するため簡便であるが、擬陽性が多いことが知られている。また、採血を必要とするため、注射針による疼痛を生じ、特に食物アレルギー患者の多くを占めている乳幼児や小児や採血が困難な高齢者への負担が大きいことが問題視されている。唾液は自己採取が可能な非侵襲性検体であり、血液

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を



検査に比べ安全性も高いという特徴があり、唾液検体を用いた簡便かつ信頼性の高いアレルギー試験法を確立することで、患者および医療従事者の負担軽減が期待できる。in vitro 超高感度 I 型アレルギー検査法 IgE Crosslinking-IgE Crosslinking-induced Luciferase Expression (EXiLE) 法は従来のアレルギー試験法よりも少量の血清で測定することが可能であり、血清よりも含有量が少ないとされる唾液中 IgE の測定にも応用可能と考えられる。本研究では、非侵襲性かつ高感度なアレルギー試験法の作成を目指し、唾液を用いた EXiLE 法の確立を目的としている。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

新型コロナウイルス感染症をはじめ、簡便かつ非侵襲的に採取できる唾液を用いた様々な検査法が開発されているが、唾液を用いたアレルギー試験法は現時点で確立されていない。本研究により、唾液検体による新規アレルギー検査法の実用化が望める。

- より簡便かつ非侵襲性のアレルギー検査法の提供
- 自己採取可能な唾液を用いることにより医療従事者の負担軽減
- 唾液中 IgE の機能解析

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【特許】第 7587745 号、国際出願番号：PCT/JP2022/007612

【科研費】・課題番号 23K14417 「唾液検体を用いた in vitro アレルギー試験法の確立」

【学会発表】・「唾液を用いた in vitro アレルギー検査法の開発」